

冠詞と「て・に・を・は」の類似性

日本人の書いた英文や話す英語に接したとき、それが日本人の英語であることが一番よくわかるのは、冠詞の用法によってでしょう。

英語の冠詞と比較してしばしば論じられるのは、日本語の助詞のむずかしさです。たしかに、

「の」「で」

も厄介です。ただ、これは英語の前置詞に相当するもので、前置詞（第3章）も簡単ではありませんが、冠詞ほどではありません。

英語に「助詞」はなく、日本語に「冠詞」はない

お互いに自分ないものを理解することになります。それぞれの言葉の中心となる部分ということでしょう。

“自分にはないもの”を理解することの
むずかしさとおもしろさ

といった意味で、「て」「に」「を」「は」と冠詞は同じように考えることもできるでしょう。

私たち教師は学生が書いた英文を見て、「冠詞の用法に注意せよ」と言いますが、明らかな誤りはともかく、いくら注意しても間違ふことがあります。これだけ冠詞に悩むのですから、それはもはやひとつの“真実”のように思われますし、だからこそ、冠詞は英語の本質だと言えます。

冠詞は英語で一番大切な言葉である

という認識を持たず、冠詞は名詞の前に何となくあるものとして今まで接してきたのであれば、これを機会にまずは冠詞に注目してもらうことができればと思います。

このテーマについても、ここまで述べてきた文法項目と同様に、自分なりの考え方を構築し、それを持った上で英語に接するということです。

